

環境経営レポート

2022 年度

(2022/4 ~ 2023/3)

《 ご挨拶 》

青梅資源リサイクル事業協同組合は平成 14 年 3 月の設立以来、古紙及び空き缶の再生を主たる事業として青梅市及び近隣地域の事業者と協力関係を進めてまいりました。

当事業所では関係者の協力のもと、全従業員が環境保全活動をさらに積極的に展開しています。本環境経営レポートでは、これまで取り組んできた成果をまとめておりますので、ご高覧の上、ご指導ご指摘をいただければ幸甚でございます。

青梅資源リサイクル事業協同組合
代表理事 吉崎 稔旺

《 目次 》

	頁
1. 事業の概要	1
2. 環境経営方針	4
3. 環境保全推進体制	5
4. 過去 3 年間の環境負荷の状況	6
5. 環境保全計画	8
6. 環境経営目標及びその実績・評価	10
7. 取組事例紹介	13
8. 環境関連法規制の遵守状況	15
9. 代表者による評価と見直しの要旨・次年度計画の主要事項	15

1. 事業の概要

1) 組合概要

- (1) 名 称 青梅資源リサイクル事業協同組合
代表理事 吉崎 稔旺
- (2) 設 立 平成 14 年 3 月 22 日
事業開始 平成 14 年 4 月 1 日
- (3) 出資金 240 万円
- (4) 所在地 〒198-0023 東京都青梅市今井 3-3-16
TEL : 0428-33-9221 FAX : 0428-33-9222
- (5) 環境管理責任者 鈴木 健太
- (6) 事業内容
古紙、空き缶等の回収及び再資源化
(登録の事業活動：古紙、古布、空き缶の再資源化)

2) 事業規模

活動規模	単位	2019 年度 (2019/4－ 2020/3)	2020 年度 (2020/4－ 2021/3)	2021 年度 (2021/4－ 2022/3)	2022 年度 (2022/4－ 2023/3)
再生資源搬入量	トン	6248	6477	6453	5930
再生資源搬出量	トン	6112	6854	6394	6125
従業員数	人	5	5	5	5
敷地面積	m ²	2292	2292	2292	2292
床面積	m ²	1541	1541	1541	1541

3) 保有車両及び設備等

保有車両

種 類	最大積載量	台 数
トラック	4 トン	2
トラック	1.5 トン	2

主要設備

設 備	形 式	規 模
渡辺鉄工社製ラージベール	LB-1511-100A 型	定格出力 91.1kW
北町機械社製空き缶プレス機	CP1657050-37 型	定格出力 37.0kW
EMS 社製磁力選別機	FPS7503 型	定格出力 1.5kW
日本製衡所製トラックスケール	NL-FC-3N	
カードリーダー読み取り計量システム		

重 機

種 類	最大積載量	台 数
フォークリフト	2.5 トン	1
〃	3.0 トン	1
クランプフォーク	3.5 トン	1
回転フォーク	3.0 トン	1
ショベルローダ	3.0 トン	1

4) 許可番号

古物商 東京都第 308800808319 号 許可年月日 平成 20 年 8 月 20 日

連絡先

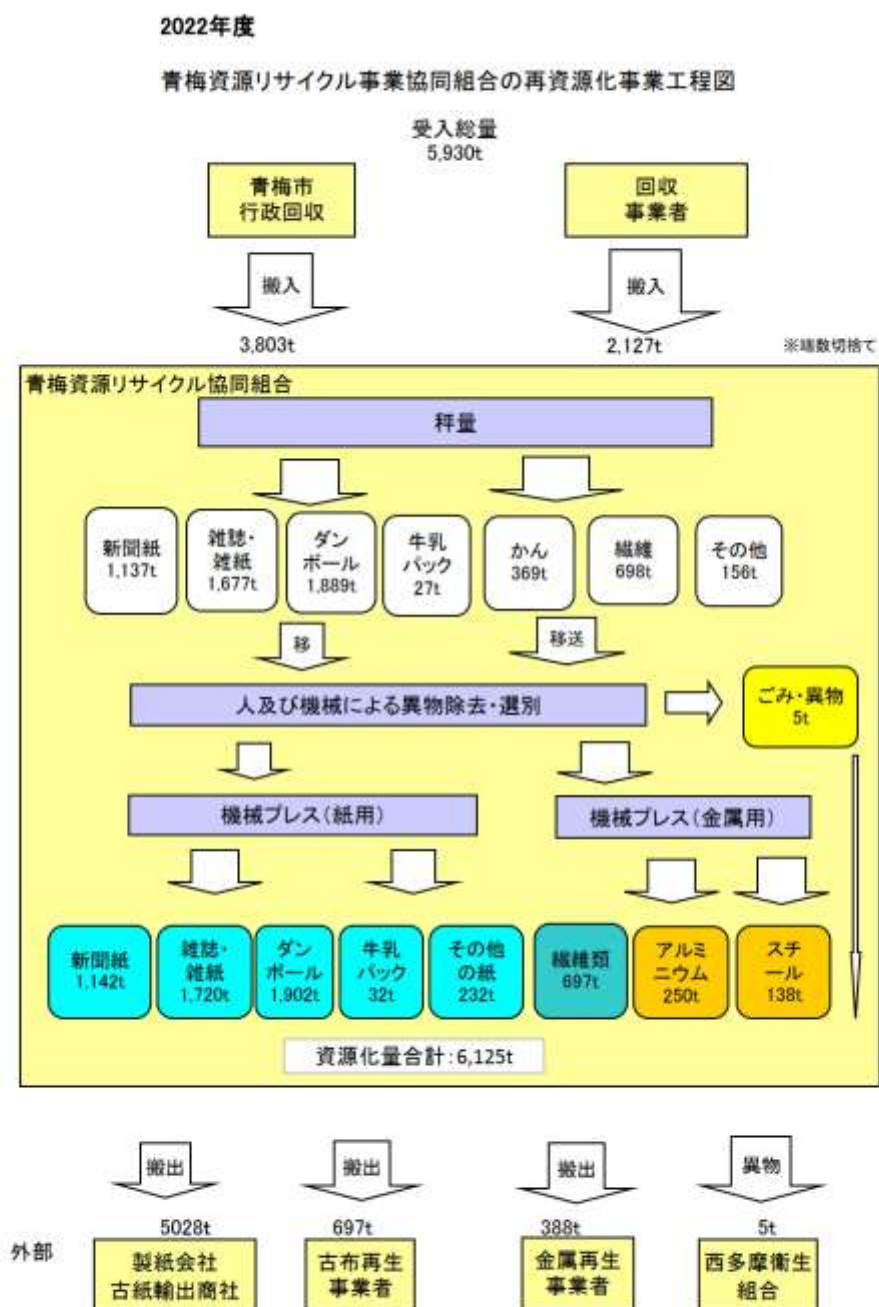
代表理事 吉崎 稔旺

TEL : 0428-33-9221

FAX : 0428-33-9222

当組合においては、エコアクション 21 に基づく環境への取り組みを平成 20 年 2 月にスタートしました。取組の評価は毎年 4 月から 3 月までを年度単位とします。本環境経営レポートでは 2022 年度(2022 年 4 月 - 2023 年 3 月)における取組を主に紹介いたします。

5) 事業の工程 (数字は 2022 年度実績)



2. 環境経営方針

青梅資源リサイクル事業協同組合環境経営方針

基本理念

青梅資源リサイクル事業協同組合は、一人ひとりが自然や環境との調和を考慮し行動するとともに、紙類・空き缶のリサイクル事業を通じて循環型社会の形成に貢献していきます。

行動指針

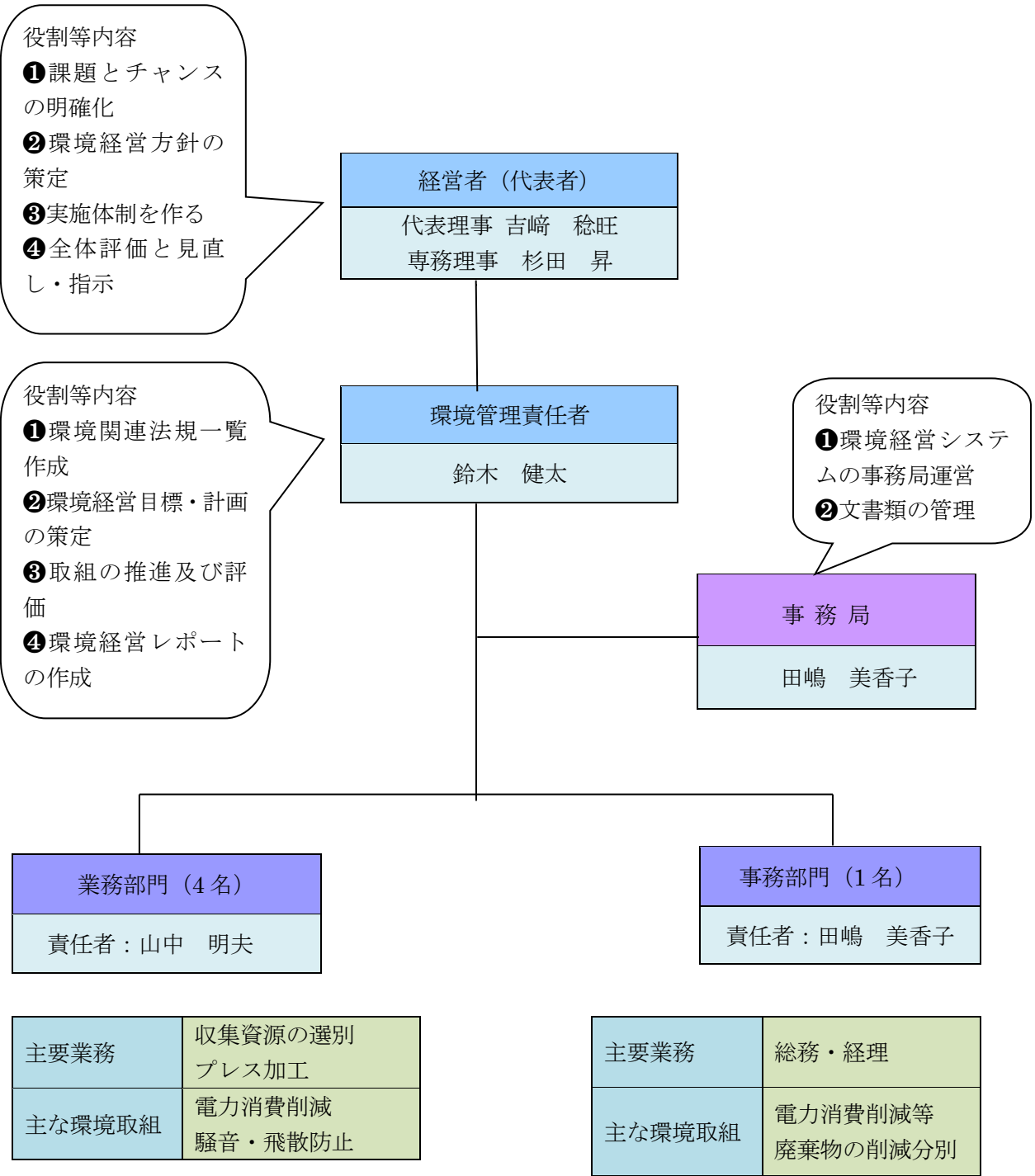
- 1 資源物の再資源化に関する事業を積極的に推進することにより、省資源・省エネルギーに貢献します。
- 2 事業活動が環境に及ぼす影響を把握し環境経営目標を設定し、自主的・積極的に環境保全活動をおこないます。
 - (1) 電力使用量の削減
 - (2) 軽油などの化石燃料の使用削減
 - (3) 自社発生廃棄物の削減
 - (4) 分別向上による高品質な製品の提供
 - (5) 6S の実践
 - (6) 近隣への騒音等の影響防止
- 3 環境関連法規及び業界自主基準を遵守します。
- 4 環境管理システムを確立し、継続的に改善していきます。

平成 24 年 5 月 1 日制定
令和 4 年 5 月 25 日改定
青梅資源リサイクル事業協同組合
代表理事 吉崎 稔旺

3. 環境保全推進体制

青梅資源リサイクル事業協同組合環境管理組織

(2021 年 4 月現在)

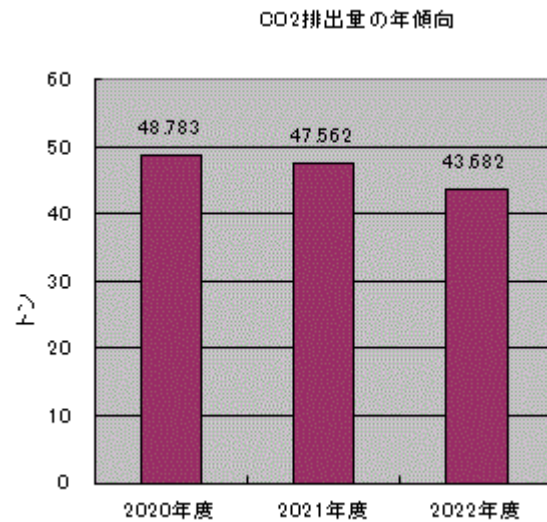


4. 過去3年間の環境負荷の状況

4.1 二酸化炭素排出量

当事業所における二酸化炭素の排出量は、2022年度（2022年4月～2023年3月）においては43.6トンでした。昨年度に対して3.88トンの低減となっています。

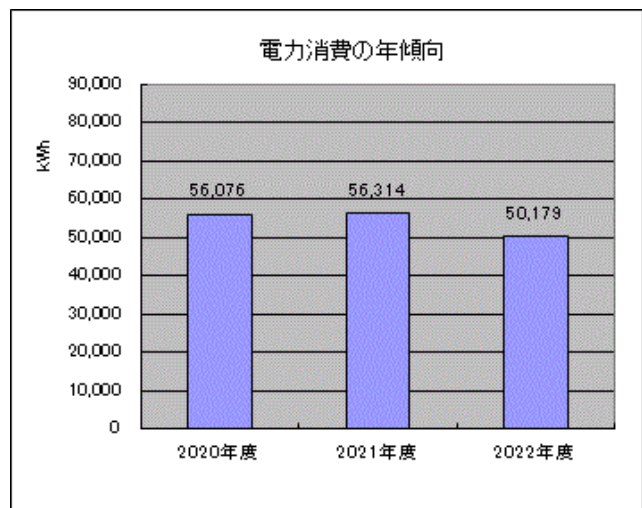
（購入電力の二酸化炭素排出係数は0.505kg-CO₂/kWhを使用しました）



4.2 電力消費

集荷した資源物を中間処理する工場での動力源は電力のみです。

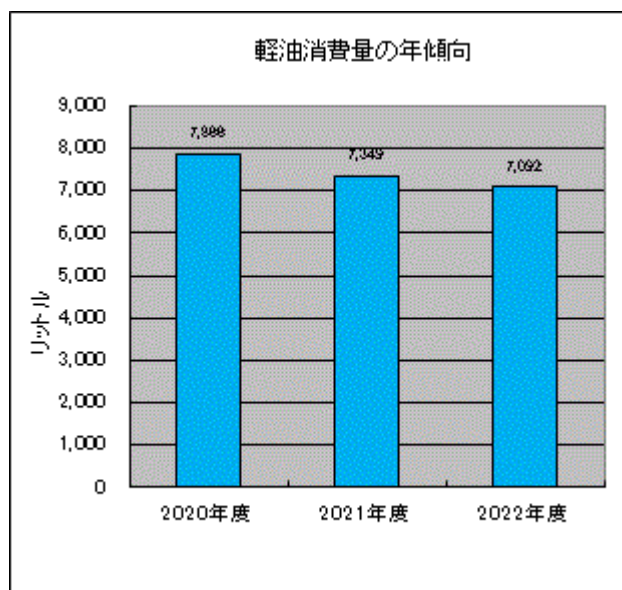
2022年度（2022年4月～2023年3月）においては50,179kwhでした。昨年度に対して6,135kwhの低減となりました。



4.3 軽油消費量

省エネ運転・点検等の実施を心がけております。

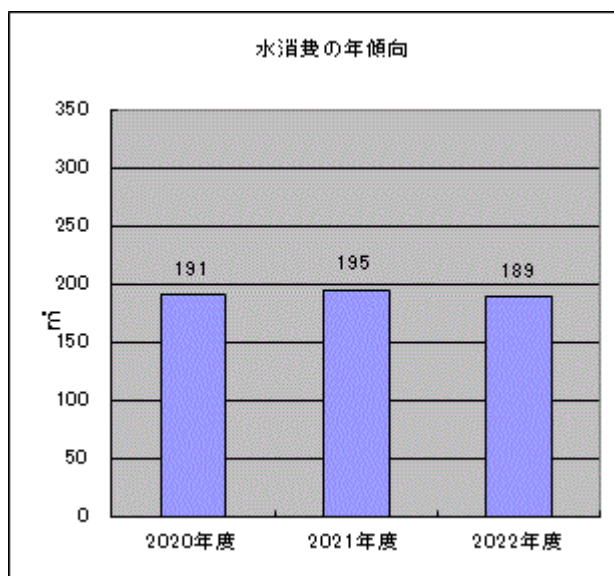
2022年度（2022年4月～2023年3月）は昨年度に対し257ℓ削減しました。



4.4 水消費量

クーリングタワー、トイレ、手洗い、洗濯機の使用が上水用途の主要なものです。工場内では散水等はしておらず、清掃等を使用する程度であり、常に節水に心がけています。

2022年度（2022年4月～2023年3月）は昨年度に対し6 m³低減しました。



4.5 再生資源取扱量

搬出した量(販売量)をグラフに示します。

2022年度（2022年4月～2023年3月）は昨年度に対し243t減少しました。



5. 環境保全計画

5.1 中期環境経営目標

2022 年 4 月に設定した中期環境経営目標を表に示します。なお、各年度は 4 月～3 月です。

重点施策		目的	環境経営目標		
			2022 年度	2023 年度	2024 年度
1.環境 負荷の 削減	1.1 省エネ ルギー・省資 源	消費電力削減	消費電力維持 (前年度同期比:処 理量当り)	消費電力維持 (前年度同期比:処 理量当り)	消費電力維持 (前年度同期比:処 理量当り)
		軽油等燃料消 費削減	燃料消費 1%削減 (CO ₂ 換算) (前年同期比:処理 量当り)	燃料消費 1%削減 (CO ₂ 換算) (前年同期比:処理 量当り)	燃料消費 1%削減 (CO ₂ 換算) (前年同期比:処理 量当り)
		CO ₂ の削減	2019 年度排出量 (50.17t-CO ₂)を維 持	2019 年度排出量 (50.17t-CO ₂)を維 持	2019 年度排出量 (50.17t-CO ₂)を維 持
		上水消費量の 削減	上水使用量 2019 年 度を維持	上水使用量 2019 年 度を維持	上水使用量 2019 年 度を維持
	1.2 リサイクル 事業の推 進	分別向上によ る製品品質向 上	回収資源物に含有 される不要物の 7% 削減(H26 年度同期 比)	回収資源物に含有 される不要物の 8% 削減(H26 年度同 期比)	回収資源物に含有 される不要物の 9% 削減(H26 年度同 期比)
		消耗品・資材 の適正利用	消耗品・資材の使 用量削減 26 年比 3%	消耗品・資材の使 用量削減 26 年比 4%	消耗品・資材の使 用量削減 26 年比 5%
	1.3 自社発生 廃棄物の 削減	自社一般廃棄 物の発生抑制	自社廃棄物量の H26 度実績維持 (H26 度:128.9kg)	自社廃棄物量の H26 度実績維持 (H26 度:128.9kg)	自社廃棄物量の H26 度実績維持 (H26 度:128.9kg)
2.環境 取組の 推進・ 向上	2.1 全従業員 の参加	教育・説明・勉 強会	教育、説明会を月 1 回 15 分実施	教育、説明会を月 1 回 15 分実施	教育、説明会を月 1 回 15 分実施
		6Sの取組	週1回点検し、6S基 準を守っている	週1回点検し、6S基 準を守っている	週1回点検し、6S基 準を守っている
	2.2 地域 への環境 配慮	騒音防止、紙 片の飛散防止	苦情がなく、異常も ない	苦情がなく、異常も ない	苦情がなく、異常も ない
	2.3 グリー ン購入	環境配慮製品 の優先購入	環境配慮製品優先 購入(数値目標なし)	環境配慮製品優先 購入(数値目標なし)	環境配慮製品優先 購入(数値目標なし)
3.取引 先・関 連団体 等とのコ ミュニケー ション	3.1 団体・行 政・市民と の連携活 動	適切なコミュニ ケーションとリ サイクル量・質 の向上	1)提言がリサイクル の品質向上にむす びついている 2)各種団体の見学 を受け入れ:申込に 100%対応	1)提言がリサイクル の品質向上にむす びついている 2)各種団体の見学 を受け入れ:申込に 100%対応	1)提言がリサイクル の品質向上にむす びついている 2)各種団体の見学 を受け入れ:申込に 100%対応

5.2 当年度（2022 年度）の実施計画

2022 年度（2022 年 4 月から 2023 年 3 月まで）の環境保全活動計画における主な実施事項を紹介します。

目的	実 施 事 項
消費電力削減	1)省エネ施策定着化とチェック表での実施確認 2) 省エネ機器の導入(LED 照明採用など)
軽油等燃料消費削減	1) アイドリングストップ等省エネ運転 2) 確実な車両整備・点検
上水消費量の削減	1) 蛇口付近に節水ポスター等表示 2) 洗濯機の効率的利用
消耗品・資材の適正利用	使用量の把握（マスク、番線など）、計画的利用

6. 環境経営目標及び計画に対する実績・評価

当組合においては、計画に基づく環境保全への取組を平成 20 年 4 月から行っています。
2022 年 4 月から 2023 年 3 月までの 1 年間の活動実績を評価しました。

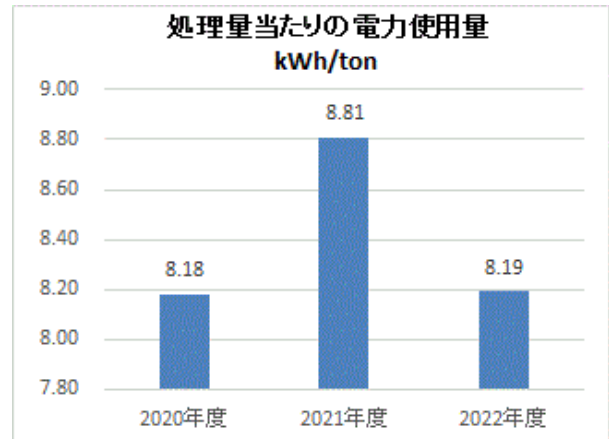
6.1 主な環境負荷の実績

(1) 処理量当り電力消費量

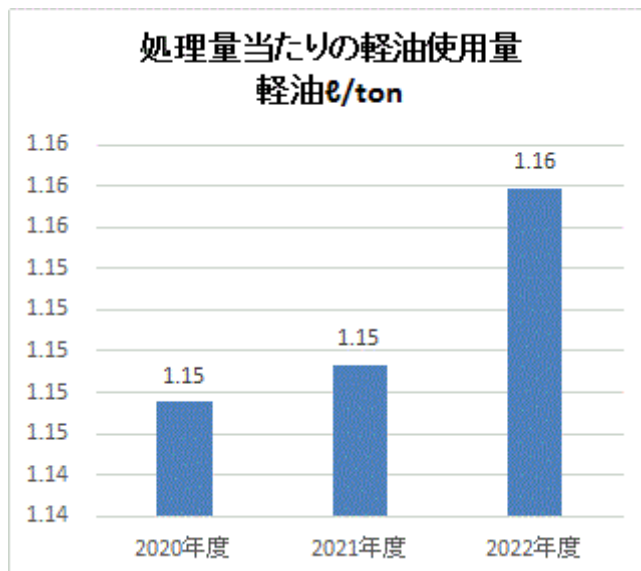
資源物の処理量は前年比でやや減少しています。

処理量換算では 8.19kWh/ton と、前年比で 0.62kWh/ton 低減しました。

	電力消費量 (kWh)	処理量当り電力 (kWh/t)
2019 年度	58,230	9.5
2020 年度	56,076	8.18
2021 年度	56,314	8.81
2022 年度	50,179	8.19



(2) 軽油消費量

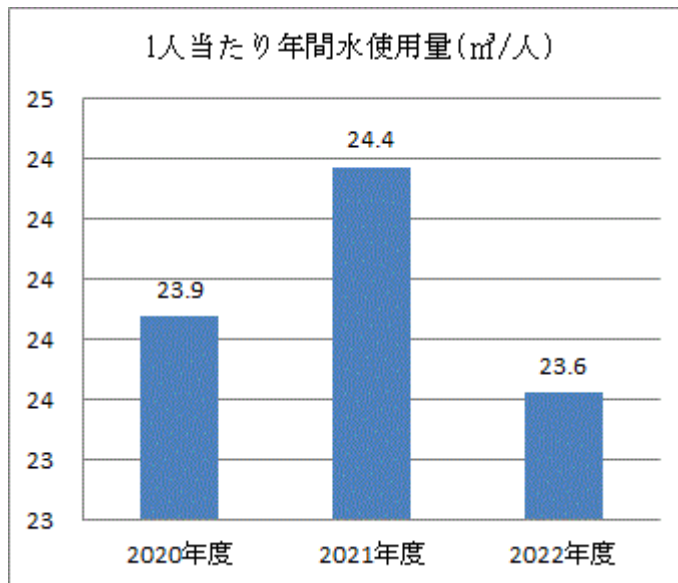


安全走行を心掛け、ムリ・ムダを避けての運転を実施しています。

総量では前年比 257ℓの減少となりましたが、取扱量減少の為、処理量辺りではわずかに増加し 1.16ℓ/ton となりました。

	消費量 (ℓ)	処理量当り (ℓ/t)
2019 年度	7,685	1.26
2020 年度	7,866	1.15
2021 年度	7,349	1.15
2022 年度	7,092	1.16

(3) 水使用量



節水に注意して使用しています。

2021年度の使用量は189立米で、前年比6 m³低減しました。

水の使用については節水を心がけています。工場内での散水はありません。

	使用量 (m ³)	1人当たり (m ³ /人)
2019年度	178	22.3
2020年度	191	23.9
2021年度	195	24.4
2022年度	189	23.6

6.2 環境保全活動の評価

2022 年度（2022 年 4 月-2023 年 3 月）の環境活動結果

重点施策	2022 年度目標	目標に対する実績	実績 評価	実施内容	実施 内容 の 評価	課題・ 是正内容
省エネルギー・省 資源	処理量当り消費電力維持 (前年度比) 使用電力量:56,314kWh 処理量当り:8.81kWh/t	使用電力量: 50,179kWh 処理量当り 8.19kWh/t	○	・ 不用不急の消灯 ・ 空調設備の温度管理、 休憩時の消灯の実施	OK OK OK	ペーラー無負 荷時の停止 点検整備 (2 年毎)
	燃料消費 1%削減(CO2 換算)(前年度比) 燃料消費量:7,349L 処理量当り:1.15L/t	燃料(軽油)消費量: 7,092L 処理量当り: 1.16L/t	○	・ アイドリング中止 ・ 省エネ運転 ・ 確実な車輛整備・点 検	OK OK OK	省エネ運転教 育の徹底 動線効率化
	CO2 削減 2019 年度量(50.17t-CO ₂) を維持	CO2 排出量: 43.68 t-CO ₂ 目標に対して 87%	○	・ 燃料消費量削減で目 標を達成	OK	上記項目の削 減対策
	上水量使用量維持 (2019 年度比一人当たり) 一人当り:22.3m3	上水量: 189m3 1 人当り:23.6m3 1.3m3 増	×	・ 節水ポスター等の表 示 ・ 洗濯機の効率的活用	OK OK	現状対策の実 施(節水)
1.2 リサイク ル事業の 推進	回収資源物に含有される 不要物の 7%削減(H26 年 度比) 含有量:6.9t	H26 年度比 27.6%減 含有量:5t	○	・ 行政や業者に協力要 請 ・ 作業員の除去作業	OK	広報の活用 含有不要物の 削減
	資源物量の確保	再資源化量 6,124t	—	・ 会員会社からの受入 強化	OK	実施中 他品目を検討 する
	消耗品・資材の使用量削 減 3%削減(H26 年度同 期比)	評価が困難なので努力し、 当面様子をみる	—	・ 使用量の把握	OK	
1.3 自社発生 廃棄物の 削減	自社廃棄物量の H26 度 実績維持 (H26 度:128.9kg)	年間排出量: 117.3kg	○	・ 計量の実施	OK	計量を継続し 引き続き数 値を把握す る
2.1 全従業員 の参加	教育、説明会を月 1 回 15 分実施	月 1 回実施した	○	・ 同じ目標を持つ ・ 朝礼と話し合い	OK	継続 提案し易い環 境作りを行う
	週 1 回点検し、6S 基準を 守っている	毎日身の回りの 6S 実施	○	・ 点検実施	OK	6 S を実施
2.2 地域への 環境配慮	苦情がなく、異常もない	苦情・異常はなかった	○	・ 周辺清掃(毎日) ・ 工業団地での訓練参 加	OK	継続
3.1 団体・行 政・市民 との連携 活動	1) 提言がリサイクルの品 質向上にむすびついてい る 2) 各種団体の見学を受け 入れ: 申込に 100%対応 3) 体験受入れ	目標を達成しているが、コ ロナ禍により見学の申 し込みはなかった。	—	・ 行政と協議	OK	積極的な受入 れ

※2022 年度二酸化炭素排出量総量 44.21t-CO₂

※化学物質は使用していません。

7. 取組事例紹介

(1) 工場内照明の LED 化



12 個の電灯を LED 化し電力消費の削減を行います。
工場内の LED 化は全て完了しました。

(2) 節水



各水道の蛇口に節水の励行を表示し、節水を心掛けています

(3) 天井窓の設置



節電対策と作業効率のアップのため、平成 23 年 11 月に屋根の改良工事を行いました。このことにより終日、電灯の点灯はほとんどなくなりました。
節電と共に作業上も明るくなり危険回避の一助となりました。
天井窓の追加設置を計画しています。

(4) ベーラー排出口に鉄板設置



製品として排出される末端がコンクリートであったものから鉄板に置き換えました。
紙片の飛散も少なくなり、機械に対する負荷も軽減され、電力削減に寄与しています。

(5)ローダー導入



大容量ローダーの導入により時間短縮、作業効率の改善を行いました。

(6)電気使用量計測



日々電気使用量の計測を行い、電力使用量の削減、管理に努めています。

今後、現場でリアルタイムに電力使用量の確認が出来るシステムの構築を行い、即時即断での電力使用量削減を行える体制を整えます。

(7) 事務所内電灯の LED 化

事務所内1階、2階の蛍光灯を LED 化完了しました。

残りはキッチンの1箇所のみです。

(8) 工場屋根へのソーラーパネル設置
(検討中)

費用対効果の検討中

(9) 作業現場への電力モニター導入

現場で電力使用量をリアルタイムで確認できる機器の設置を予定しています。コスト面でペイするかを要確認事項とします。

8. 環境関連法規制の遵守状況

当組合に係る環境関連法規及び取引先等との同意する要求事項には適切に対応しています。主な関連法規を下表に示します。また、係争中の訴訟及び近隣からの苦情はありません。

表：関連する主な法律

法規制	主な対象施設等	主たる実施事項	遵守状況
振動規制法	プレス機、自動車	届出、大きな騒音を出さない	問題なし
フロン排出抑制法	エアコン	定期点検・簡易点検	問題なし
消防法	工場、事務所	消火器設置、定期清掃	問題なし
騒音規制法	プレス機、自動車	届出、大きな騒音を出さない	問題なし

9. 代表者による全体評価と見直し・指示・次年度計画の重要事項

(1) 評価と見直しの要旨

- ・ 電気使用量は前年度比 0.62kWh/ton 減少した。取扱量その物が減った為、機械への負荷が低減した可能性がある。
- ・ 受入れ量が減少し、特に新聞の減少が顕著である。デジタル化の流れは止められない為、紙類以外の品目取扱いを強化する等の対策を検討する。
- ・ 軽油使用量は前年度比 257L 減少したが、処理量当りでは収集運搬効率の悪化により 1.16L/ton と 0.01 微増した。引続き効率的な作業を行うこと。
- ・ コロナ禍がある程度の落ち着きを見せ、増加していた段ボールの取扱量は落ち着きを見せてきた。今後は取扱量増加だけでなく、効率化や高単価の品目を扱うことにより経営の安定を目指す。
- ・ 誰でも実施可能とするために、マニュアル化をさらに進める。
- ・ 電気使用量増加の原因が不明瞭。何がどのタイミングで増えているのかを把握する。

2022 年度活動に指示した主要事項の実施状況

- ・ 6S→ よくやれていて問題なし
- ・ 作業の標準化→ 要領書作成済み。順次実施中。
- ・ 照明の LED への交換→ 一部交換済。順次実施中。
- ・ 電気使用量増大原因の突き止め→ 工場内での電力使用量見える化が完了した。しかし原因が解決することの難しい物の為今後の対応を検討する。

次年度計画

2022 年度に計画した実施事項に引き続き取り組むとともに、未完了の LED 交換などを計画し実施する。

紙類の今後の減少に対応する為、取扱い品目増加等の検討を行う。